

ランチンセミナー2

Luncheon Seminar 2

日時

2024年8月23日(金) 12:20~13:20

会場

第3会場 名古屋国際会議場

1号館4F 会議室141+142

〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番1号

ケアの質向上のためにエコーを活かす： 安全・安心な化学療法における 末梢静脈カテーテル留置に向けて

座長

村山 陵子 先生

藤田医科大学 保健衛生学部 看護学科
研究推進本部 社会実装看護創成研究センター 教授

看護の五感を可視化する

—エコーによる診断から観察へ—

演者

眞野 恵子 先生

藤田医科大学病院 副院長・統括看護部長

演者

神納 美保 先生

藤田医科大学病院 看護部 看護長
がん化学療法看護認定看護師

本セミナーは事前申込制となります

学会HPの「ランチンセミナー」ページよりお申込みください。

【学会ホームページURL】

<https://www.congre.co.jp/28janap/>

共催：第28回日本看護管理学会学術集会／

フクダ電子中部販売株式会社／富士フイルムメディカル株式会社



ランチョンセミナー2

Luncheon Seminar 2

ケアの質向上のためにエコーを活かす： 安全・安心な化学療法における 末梢静脈カテーテル留置に向けて

看護の五感を可視化する —エコーによる診断から観察へ—

眞野 恵子

藤田医科大学病院 副院長・統括看護部長

神納 美保

藤田医科大学病院 看護部 看護長

がん化学療法看護認定看護師

「観察とは、対象を単に見つめることなく、見て取った現象が何を意味するか読み取る事である」。ナイチンゲールは『看護覚え書』の中で、上記のように「観察」を定義し、「看護の基本は観察である」と述べています。私たち看護師は、「視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚」の五感を駆使し、得られた情報から「起きている」または「起こりうる」変化をアセスメントしています。一昔前は医師が検査・診断に用いていたエコーでしたが、今では看護師による観察の一手法へと変化してきました。

助産師による胎児体位確認のための腹部エコー、血管穿刺や褥瘡の観察など看護師がエコーを用いることで、日常的に患者の状態を画像として可視化し、安全・確実な看護ケアにつなげることができるようになりました。エコーを活用することにより、観察したことが客観的なデータとなり、異常の早期発見や安全な穿刺技術の提供につながり、患者の負担が少なく、よりエビデンスに基づく看護になることが期待されます。

しかし、今まで五感を使ってきた看護にエコーを導入するということは「難しい」「見逃しが怖い」「一手間かかる」と感じることもあるのではないのでしょうか。意味ある看護実践であっても、臨床で実装されない、「エビデンス・プラクティス・ギャップ」が起きていませんか？ 質の高いエビデンスが報告されても、医療者の臨床行動（プラクティス）に反映されていない状況には、何が「壁」となっているのでしょうか。

一昔前は、超音波を用いた残尿測定器で定量的に観察データ収集し、排泄ケアを実施していました。特定行為研修修了者の誕生に伴い、徐々に臨床現場でエコーを看護師が使用する場面が増えてきましたが、「画像で観察し、看護に活かす」には至りませんでした。看護部が本格的にエコーを導入するきっかけとなったのは、本大学に社会実装看護創成研究センターが設立され、看護部と大学のユニフィケーションとして看護研究の取り組みを開始したことでした。研究成果を臨床に活用するための活動が推進される中、外来薬物療法センターにおいて、穿刺後の観察を目的にエコー導入の研究の依頼を受けました。もともと安全で確実な穿刺技術を持つ看護師を配置していましたので、今回のエコー使用の目的は穿刺のために血管選択ではなく、確実な留置を確認するためでした。エコーを用いることで抗がん剤の血管外漏出を防ぎ、適切な観察を行うためのデータとして活用を開始しました。そこで一つ目の「壁」となったのは、医師の「心配」でした。「これまで実施していないことを行うことで患者に与える不安」「看護師の業務が増え、待ち時間への影響」という声がありました。二つ目の「壁」は、看護師自身の「負担感」でした。これまでほとんど血管外漏出が発生させないスキルがありましたので、一手間がかかることに対する声でした。これらの「壁」とどのように向き合い、乗り越え、エビデンス・プラクティス・ギャップを埋めていったのか。当院における導入のプロセスと今後の課題についてお話しします。

共催：第28回日本看護管理学会学術集会／

フクダ電子中部販売株式会社／富士フイルムメディカル株式会社